



TITLE:

彙報 (2009年1月-2009年12月)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

彙報 (2009年1月-2009年12月). 人文學報 2010, 99: 111-136

ISSUE DATE:

2010-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134539>

RIGHT:

## 彙 報

2009 年 (平成 22 年) 1 月～2009 年 (平成 22 年) 12 月

### 研 究 状 況

#### 研 究 班

##### 人文学研究部

##### 複数文化接触領域の人文学

班長 田中雅一

今年、本研究班の最終年度に当たる。前期は参加者の個別発表を中心に活動した。また、11 月からは主として成果論文集を念頭に論文ドラフトについて検討した。この研究班は人文学国際研究センターの拠点プロジェクトでもある。また、研究会の成果を公表する雑誌『コンタクト・ゾーン』2 号を刊行した。

2009 年

1 月 26 日 「植民地主義と人類学 戦後編：ミシガン大学日本研究所」

報告：中生 勝美

2 月 2 日 「植民地期インド・オリッサにおける社会変容 — イギリスとインドの出会いはいは地域社会をどう変えたか」

報告：田辺 明生

2 月 16 日 「アフリカ系アメリカ人の社会宗教運動にみる接触領域 — ヨルバランド巡礼がもたらすホスト・ゲスト文化の変容」

報告：小池 郁子

4 月 20 日 「敵国兵器の展示とその変遷：オーストラリアにおける日本軍特殊潜航艇展示」

報告：田村 恵子

5 月 18 日 「これは私達の地獄ではない！」立山信仰・立山博物館、アイデンティティ・衝突。立山町芦峯寺 (あしくらじ) をコンタクト・ゾーンとして考えられるか？

報告：アンドレア デ・アントーニ

6 月 1 日 「聖地グラストンベリーを構成するスピリチュアリティ実践の諸相とその相互関係」

報告：河西瑛里子

6 月 15 日 「ポストコロニアリズムという言説 — ホミ・バーバ その戦略と臨界点」

報告：磯前 順一

7 月 6 日 「ジェンダー・クロッシング」

報告：高垣 雅緒

10 月 5 日 「Colonialism, modernity, and the transformations of ‘religion’ as a category」

報告：Fitzgerald, Timothy

10 月 19 日 「旅する「伝統」 — 「コンタクト・ゾーン」における / としての理論」

報告：三原 芳秋

11 月 16 日 「帝国日本と仏教アジア主義 — 戦前期における日蓮宗僧侶・高鍋日統の内蒙古布教の事例」

報告：大谷 栄一

11 月 30 日 「妊娠・出産の時間性 — モロッコ農村部における時間のサイクル・展開・不確実性」

報告：井家 晴子

12 月 7 日 「南方熊楠の仏教 — 成熟の季節の前に —」

原稿発表：奥山 直司

「音楽をつくる — 接触領域の視点から現代的チベット音楽の制作現場を見

- る」 原稿発表：山本 達也
- 12月21日 「複数文化接触領域としてのオリシャ  
崇拜運動 — アフリカ系アメリカ人の  
社会運動とキューバのアフリカ系宗教  
との境界をめぐって」  
原稿発表：小池 郁子  
「文化接触を意味づけなおす — ラスタ  
ファリアンという「生き方」につい  
て」 原稿発表：神本 秀爾

移民の近代史 — 東アジアにおける人の移動 —

- 班長 水野直樹
- 1月30日 「開港期在韓中国人労働者問題 — 広梁  
湾塩田工事の苦力を中心に —」  
(報告1) 李 正熙  
「韓国の歴史学における開港と華僑 —  
2008年12月の仁川大学での国際会議  
「開港都市論」ワークショップに参加  
して —」 (報告2) 籠谷 直人
- 3月14日 蘭信三編著『日本帝国をめぐる人口移  
動の国際社会学』(不二出版, 2008年  
6月) (書評) 安岡 健一  
「近代遼寧省地域米作農業の展開と朝  
鮮人移民社会の形成特性」  
(報告) 金 穎  
(ゲストスピーカー・遼寧大学)
- 4月11日 「1980年前後における朝鮮華僑の帰国  
と帰国後の事情について — 延吉・和  
龍・龍井・盤石帰国華僑へのフィール  
ド調査 —」 (報告) 宋 伍強  
「共同研究のまとめに向けて」(相談会)
- 5月9日 「「満洲国」建国初期における在満朝鮮  
人の地位の変化」(報告) 金 永哲  
「1960年代韓国映画における在外「同  
胞」の役割」 (報告) 梁 仁實
- 6月13日 「万宝山事件と朝鮮排華事件との関連  
性に関する考察」(報告) 李 正熙  
「岐阜県における引揚者援護の展開 —  
被占領期を中心に —」  
(報告) 猪股 祐介
- 7月11日 「近代日本の移植民関係法制に関する

- 基礎的調査：奨励と統制」  
(報告) 李 昇燁  
「戦時末期内地農村における朝鮮人農  
民 — 京都府寺田村を事例に —」  
(報告) 安岡 健一
- 9月11日 「在満朝鮮人生活史に関する文献 —  
『植民地時期在満朝鮮人の生と記憶』  
(全4巻, 韓国, ソンイン図書出版,  
2009年)を中心に —」  
(紹介) 水野 直樹  
「1927年の在満朝鮮人「迫害」事件と  
朝鮮華僑排斥事件に対する朝鮮人社会  
の反応」 (報告) 松田 利彦
- 10月10日 「朝鮮戦争以降における朝鮮華僑の変  
容について — 朝鮮華僑の国籍問題を  
を中心に —」 (報告) 宋 伍強  
「帝国の桜 — 朝鮮へのソメイヨシノの  
植樹 —」 (報告) 高木 博志
- 11月14日 「洛北松ヶ崎からみる戦前京都の朝鮮  
人労働者」 (報告) 高野 昭雄  
「戦前期在日朝鮮人メディアの形成と  
変容 — 朝鮮人労働運動との関連性に  
着目して —」 (報告) 小野 容照
- 12月12日 「1920～30年代の青島と居留民」  
(報告) 長沢 一恵  
「朴錫胤の生涯 — “トランスナショナ  
ル”な親日派朝鮮人エリート —」  
(報告) 水野 直樹

虚構と擬制 — 総合的フィクション研究の試み —

- 班長 大浦康介
- 最終年度にあたる今年は、前期を精神分析、映画  
研究、経済学、日本文学等の分野の研究発表に当て、  
後期は研究成果報告書の刊行に向けた原稿検討会を  
おこなった。
- 1月19日 人格発達の心理学的理解から見たフィ  
クションの成立レジュメ 大山 泰宏
- 2月2日 現実と虚構レジュメ 立木 康介
- 2月16日 〈雑多〉で〈旧い〉物語映画にアプ  
ローチするためにレジュメ 石田 美紀

- 3月2日 経済政策と「かのように (Als-ob)」レジュメ 石岡 克俊
- 3月16日 近代小説の形式と虚構 — 谷崎潤一郎『春琴抄』を読む 中村ともえ
- 4月20日 フィクション論の問題圏 大浦 康介
- 5月11日 「祭りというフィクションと祭りを超えるフィクション」fiction of / beyond the maturi 川村 清志
- 6月15日 かたり継がれるカティリーナ — 19世紀「カティリーナもの」をめぐるフィクション性 鷲田 睦朗
- 6月27日 誰が星の王子さまを殺したのか? 〜ハラスメント理論の射程〜レジュメ 安富 歩
- 7月6日 キャラクターとモデルの間〜コス写真考〜レジュメ 守岡 知彦
- 7月13日 ナラティヴからドラマへ — 再考, 明治の歴史画 高階絵里加
- 10月5日 序 — フィクション論の問題圏 大浦 康介
- 10月19日 精神分析におけるいかなる可能なフィクション論にも先立つ問いについて 立木 康介
- 11月2日 遊び時間の終わり — 遊びのなかの虚構, 虚構のなかの遊び 近藤 秀樹
- 11月16日 歴史研究者が戯曲を読む — 歴史叙述と想像力 小関 隆
- 12月7日 善意の盗賊は存在しうるか; グルジアにおける義賊の虚構と擬制 伊藤 順二

**人種の表象と表現をめぐる学際的研究 (2003. 4 ~ 2009. 3)**

**世界的視野から見る日本の人種・民族表象 (2009. 4 ~ 2010. 3)**

班長 竹沢泰子  
 本年は、これまでの共同研究の成果を発表するとともに、4月から「世界的視野からみる日本の人種民族表象」研究会を発足させた。主たる成果として、論文集『人種の表象と社会的リアリティ』(岩波書店 2009年5月)(328 p.), および2008年12月に開催した国際シンポジウムの成果報告書『変化する

人種イメージ — 表象から考える』(京都大学国際交流推進機構 2009年3月)(184 p.)を刊行した。新研究会では、これまでの議論で構築してきた理論的枠組みに沿って、グローバルな観点から日本社会における人種・民族表象の考察を始めた。

1月9日(金)

「序論 合評会」「貴堂嘉之論文 合評会」 竹沢 泰子

3月7日(土)

「高校教科書日本史Aにみるマイノリティの表象」黒川みどり, 高橋 哲  
 コメンテーター 成田 龍一

4月25日(土)

「シンポジウム反省会」「新しい研究会の立ち上げにあたって」 竹沢 泰子  
 コメント 松田 素二,  
 J・ラッセル, 斉藤 綾子

4月26日(日)

「アンゴラにおけるナショナルアイデンティティ構築と人種」 寺尾 智史

6月20日(土)

“Representing and Regulating Chinese Americans During WWII”  
 Anna Pegler- Gordon  
 “How to Study Ethnicity in Immigrant Societies” Andreas Wimmer

9月7日(月)

“Neither hard-boiled nor soft-scrambled: How not to say I am an Okinawan” “沖縄人をリアルなものとする表象の仕組み” 前嵩西一馬  
 「創られた〈人種〉— 近代社会のなかの部落差別 —」 黒川みどり

10月31日(土)

『人種の表象とリアリティ』合評会  
 評者 関口 寛, 瀬戸口明久,  
 南川 文里

11月1日(日)

「アイヌの問題の現状と歴史的表現をめぐって」 佐々木利和

近代古都研究

班長 高木博志

2009年度で研究班は4年目となった。奈良・京都などの「古都」と金沢・仙台などの「城下町」の近代の歴史性に焦点をあて、多様な研究が報告された。

また前年度までの金沢・岡山に続き、二条城や「巨大城下町」の大坂のほか、仙台のフィールドワークを行った。「近代歴史都市論」として共同研究の方向性がみえてきた。

2009年

1月24日 大阪城内外近世・近代遺跡見学（真田 抜け穴・大阪靖国軍人墓地・鎌八幡・大阪城）

案内：岩城 卓二・北川 央

3月14日 「中世非人宿と近世夙村」

吉田栄治郎

「明治期京都の歴史画 — 明治20年代を中心に —」

高階絵里加

4月18日 『近代京都研究』（思文閣出版、2008年）書評会

丸山 宏・

伊従 勉・高木博志編

評者：高久嶺之介・中嶋 節子

5月16日 「近代古都研究班の中間総括 / 近代日本の文化財と陵墓 — 政治や社会との関わりにおいて —」

高木 博志

「近代日本における都市制度の創設 — 郡区町村編制法下の「区」 —」

小林 丈広

6月20日 「嘉永・安政期の〈大変〉と京都西町奉行浅野長祚（梅堂） — 幕末京都の政治社会と勤王・海防・民政のネットワーク —」

鈴木 栄樹

「空間の「観光」化と地方都市の近代（序） — 造園という職能から —」

井原 縁

7月18・19日 仙台巡見（仙台市歴史民俗資料館・旧陸軍墓地・仙台城跡・瑞鳳殿）

案内：佐藤 雅也

7月25日 安楽寺かぼちゃ供養見学・法然院掃苔

案内：廣瀬千紗子・黒岩 康博

9月26日 二条城見学（本丸庭園・西南隅櫓・二

の丸御殿台所・御清所）

案内：河原 伸治・中嶋 節子

10月17日 「明治期の天皇制と民俗の変容」

市川 秀之

「植民地期ソウルの都市計画 — 1930年代を中心に —」

石田潤一郎

11月14日 「明治前期の「門跡」と京都 — 永世禄下賜と門跡号復旧をめぐる —」

青谷 美羽

「1881年イギリス皇孫の来京」

高久嶺之介

12月19日 「大阪城天守閣復興にみる戦前大阪市の都市経営と歴史認識 — 日本近現代都市史研究の視点から —」

能川 泰治

「「軍都」と都市基盤整備 — 熊本市の事例 —」

三澤 純

第一次世界大戦の総合的研究に向けて

班長 山室信一・岡田暁生

研究会発足3年目にあたる本年度は、参加者による個別発表に加え、一般教養科目としてリレー講義も行なった。本年度の研究においては、とりわけ日本と第一次世界大戦の関係をめぐる発表を多く得ることが出来た。なおこの3年間の成果の一部として、来年度第一次世界大戦についての6冊ブックレットを出版する予定である。

2009年

1月26日 「第一次世界大戦前後の朝鮮：研究史と課題」

李 昇燁

2月23日 「1910～20年代、日本の史蹟・名勝」

高木 博志

4月11日 「総力戦からサイバネティックスへ」

安富 歩

4月27日 「絶対平和主義から宥和政策へ — クリフォード・アレンの軌跡」

小関 隆

5月9日 「ドイツ社会と戦争障害者 — 第一次世界大戦の傷跡」

北村 陽子

5月25日 「第一次大戦前後の中国：研究史と課題」

小野寺史郎

6月13日 「第一次世界大戦と映画」

伊藤 洋司

- 6月22日 「G・E・ムアとブルームズベリー・グループ」 小田川大典
- 7月11日 「古典的帝国主義論の再検討：ホブスンからレーニンまで」 王寺 賢太
- 9月28日 民力涵養運動と「戦後」社会 黒岩 康博
- 10月12日 ある音楽批評家が第一次大戦の戦場で考えたこと — パウル・ベッカーと音楽社会学の始まり 岡田 暁生
- 10月26日 井上清、渡辺徹編『米騒動の研究』（全5巻、有斐閣）を読む 籠谷 直人
- 11月14日 ある編集者の肖像 — ジャック・リヴィエールと第一次世界大戦 小黒 昌文
- 11月23日 戦争・市場・国家：第一次世界大戦のイギリスと国債 坂本優一郎
- 12月21日 「8月の砲声」と在欧日本人 — ドイツを中心として 奈良岡聰智

古典のなかのアジア史 班長 籠谷直人

各月の第2土曜日はテキストの会読にあてた。

4月25日(土)

「1年のまとめと展望」 籠谷 直人  
「クリス・ベイリー論について」

神田さやこ

参考文献：

C. A. Bayly, Rulers, townsmen and bazaars: North Indian society in the age of British expansion 1770–1870 (Cambridge: CUP, 1983).

C. A. Bayly, Indian society and the making of the British Empire, Cambridge history of India, II-1 (Cambridge: CUP, 1988).

5月23日(土) インフルエンザ蔓延にて、6月27日に順延しました。

6月27日(土)

「浅香末起がみた「南方圏について」

籠谷 直人

参考文献：

『爪哇経済界ノ現況ト蘭領東印度ノ原

始産業並ニ其ノ取引概観』（南支南洋研究第9号）台北高等商業学校、1930年9月。

『南洋経済研究』千倉書房 1942年2月（初版は41年6月）。

『南方交易論』千倉書房、1943年1月。

「ジャワ人口問題とその対策」『大日本拓殖学会年報』第一輯（大東亜政策の諸問題）、日本評論社、1943年6月。

『大南方経済論』太平洋書館、1944年10月。

8月5日(水)

Utrecht, The Netherlands, World Economic History Congress 2009にて成果報告

9月26日(日)

社会経済史学にて成果報告「19世紀のアジア・ネットワーク — 金融網と通商網をとおして」

司会：濱下 武志（籠谷大学）

「東アジアにおける自由貿易原則の浸透」 籠谷 直人

「イギリス帝国下のイースタンバンク問題：英領インドから海峡植民地へ1853～67年」 川村 朋貴

「香港における銀本位制の成立と銀行券の役割について」 西村 雄志

「朝鮮開港期における華商の活動と広域ネットワーク」 石川 亮太

10月24日(土)

「大塚久雄『株式会社発生史論』をめぐって」 坂本優一郎

参考文献：

『大塚久雄著作集』岩波書店。

The Great Divergence, Europe, China and the Making of the Modern World Economy, Princeton University Press, 2000. Kenneth Pomeranz

12月19日(土)

「グローバル・ヒストリーのなかの大

川周明論」 脇村 孝平  
参考文献：  
亞細亞建設者 / 大川周明著。— 第一書房, 1941  
印度に於ける国民的運動の現状及び其の由来 / 大川周明 [著]。— 大川周明, 1916.  
回教概論 / 大川周明著。— 岩崎書店, 1954  
特許植民會社制度研究 / 大川周明著。— 寶文館, 1927. 2.  
日本二千六百年史 / 大川周明著。— 第一書房, 1939.  
復興亞細亞の諸問題 / 大川周明著。— 大鐙閣, 1922. 7.

#### 王権と儀礼

班長 藤井正人

本共同研究は、王権と儀礼との関係を古代インドの王権儀礼を中心に研究することを目的としている。ヴェーダ文献を基礎資料にしているが、インド学の諸分野のほか、言語学、歴史学、考古学、美術史、人類学などの複数の視点から資料を分析するとともに、さまざまな時代と地域における王権と儀礼に関わる問題を比較研究の対象としている。

隔週に開いている研究会では、会読と報告をほぼ交互に行なっている。会読では、ヴェーダ祭式文献の中から王即位式（ラージャスーヤ）に関するすべての箇所を読解し、この儀礼に関する資料の集成をめざしている。報告では、王権と儀礼に関係してさまざまな分野の異なる視点から報告をおこなっている。5年目の今年度は、会読については当初予定より拡大した範囲のものも含めて関連資料の約9割の検討を終え、報告についてはインド現地調査研究の分野から報告を受けた。

今年度より、研究の完了と成果の出版にむけて、最終的なとりまとめ作業を開始した。会読に関しては、全資料の再検討を行ないながら、会読文献のうち未訳のもの二種について王即位式に関する部分の英訳を始めた。詳細な解説および索引を付した英文研究書として出版する予定である。また、報告については、研究視野の拡大を続けるとともに、これま

での報告を深化・発展させ、さまざまな地域と時代の王権と儀礼をめぐる論文集にまとめる予定である。研究会記録

- 1月23日（会読20）Vadhula-Srautasutra 10, 11, 1-13 池田 宣幸  
5月15日（会読21）これまでの総括 藤井 正人（再読1）Vadhula-Srautasutra 10, 1, 1-17 梶原三恵子  
6月12日（報告22）ケーララ州におけるヴェーダウラ学派の現況 — 二大師匠家のひとつ「ネドゥムピリ家」を中心に — 梶原三恵子・手嶋 英貴  
10月2日（会読22）Vadhula-Srautasutra 10, 11, 14-26 小林 正人  
12月25日（会読23）Vadhula-Srautasutra 10, 11, 27-38 藤井 正人（再読2）Vadhula-Srautasutra 10, 1, 18-60 手嶋 英貴  
研究準備会 11月13日, 12月11日

#### 色道書の言語をめぐる文明史的研究

班長 横山俊夫

安定社会が閉塞せず、文にして明なる状態に赴くかどうかは、その社会を構成する諸要素が適切に交わり続けるために必要な豊かな媒介が存在するかどうかにかかっている。とりわけ、言語による媒介機能の質が問われる。この研究では、17世紀末からの安定期日本の上方に栄えた非武装閉鎖空間である遊里を、文明化の要素をはらんだ安定社会のいわば小規模実験例と見立て、そこでの虚実柔剛明暗の言語のありようを観察し、その媒介機能の人類史的価値について考える。

資料として、西水庵無底居士の『難波鉦』を選び、そこに記された言語生態の諸相をとらえ、文明化研究の観点から分類を試みる。そのことにより、当班の旧組織が試みた同書の一部校訂や現代上方語訳を修訂するとともに、未校未訳部分を加え、当班独自の意味づけを持たせた一篇をまとめた。そのためには、同時代の他の「遊女評判記」や「色道諸分」類との比較とともに、各班員が属している多様な現代学術分野における、それぞれに特殊な言語習慣と



の対比が有効であろう。

象あれこれ」

横山

班 員

岩城卓二、菊地 暁、古勝隆一、武田時昌、田中祐理子（以上、所内） 木村大治、塩瀬隆之、田辺明生、松田文彦、山極壽一（以上、学内） 上村多恵子（日本ペンクラブ）、遠藤 彰（立命館大）、後藤静夫（京都市立芸術大）、斎藤清明（総合地球環境研）、廣瀬千紗子（同志社女子大）、深澤一幸（大阪大）

- 5月23日 「研究班の運営について」 横山  
「『吉原徒然草』を読む」 廣瀬  
見学会 下京 粟嶋堂宗徳寺
- 6月27日 「『都風俗鑑』案内」 廣瀬  
「『難波鉦』梅之部〈埋火 かほる〉補遺」 横山
- 7月1日 「〈自然学〉という言葉 — 今西錦司の選択 —」 斎藤
- 7月29日 「『難波鉦』〈枕箱 きん太夫〉新釈」 後藤  
「括弧の意味論」 木村
- 8月18日 見学会 和文華の会主催「文楽 義太夫節はおもしろい」 義太  
（演者 豊竹嶋大夫氏、豊澤富助氏） 解説 後藤
- 9月19日 「『難波鉦』〈火廻 おこと〉輪読」 田中  
「〈ことばの聖〉二人 — 新村出と柳田国男 —」 菊地
- 10月1日 「言葉を共有するためのインクルーシブデザイン」 塩瀬
- 10月17日 「『難波鉦』〈一時雨 はつ雪〉輪読」 遠藤  
「ゲノムの配列から眺めたヒトという存在」 松田
- 11月11日 「公事宿とは何者か — 公私の狭間に生きた人々 —」 岩城
- 12月2日 見学会 橋会館苑内の鶏冠木  
「章炳麟の日本漢学蔑視をめぐって」 古勝
- 12月19日 「『難波鉦』〈初髻 まん太夫〉」 廣瀬  
「奥村三四郎『秘傳書』に見る媒介事

外から見た近代日本の記録（2008. 4 ～ 2009. 3）  
近代日本と異文化接触 — 「同時代化」を生きた人々の記録 —（2009. 4 ～ 2012. 3）

班長 ヴィータ、シルヴィオ

前年から継続していた「外から見た近代日本の記録」を2009年3月で終え、引き続き「近代日本と異文化接触 — 「同時代化」を生きた記録 —」として再スタートした。後者は3年かがりで交流の場としての「近代」という時代を扱うことにして、日本から見た洋行という行為も視野に入れた。人文学国際研究センターの活動の一環として考え、ゲスト・スピーカーを含めた参加者の個別発表の形を取った。研究会の成果は三年後、論文集にまとめる予定である。

◆外から見た近代日本の記録

○2009年2月27日

「1862年ロンドン万国博覧会と日本 — 「日本研究」の相対化に向けて」

報告：佐野真由子

○2009年3月6日

「リチャード・ゴードン・スミスの日本発見」 報告：伊井 春樹

○2009年3月13日

「19世紀日伊交流の一側面 — ピエトロ・サヴィオによる第2回日本内陸部巡遊（1874） —」 報告：岩倉 翔子

◆近代日本と異文化接触 — 「同時代化」を生きた人々の記録 —

○2009年4月27日 「20世紀前半期の神戸に生きた英国系定住外国人たち：資料と研究」 報告：田村 恵子

○2009年6月8日

「チャールズ・ロングフェローと関連資料の課題」

報告：シルヴィオ・ヴィータ

「チャールズ・ロングフェローの日本旅行 — Catherine M. E. Guth Longfellow's Tattoos と「信憑性」の問題」



報告：アンドリュウ・エリオット  
「若きウゴ・ピサと米公使デ・ロング  
の北海道・東北視察旅行について」  
報告：ジュリオ・ベルテッリ  
○2009年11月30日 「フランス士官が見た近代日  
本建築 1876-1878 - コレージュ・  
ド・フランス日本学高等研究所所蔵、  
ルイ・クレットマン (Louis Kreit-  
mann) の写真コレクションの紹介と  
分析」 報告：Nicolas Fieve

#### 人文研探検

班長 岩城卓二・菊地 暁

本研究班は、人文研の歴史を基礎データに基づいて検証し、日本の人文社会科学のあり方を再検討する試みである。研究対象は、人文研の活動により産出されたさまざまな知的プロダクトであるが、大別して1) 著作物、2) 人的資源、3) 資料群、4) 方法的蓄積、がある。これらを相互に関連させつつ、時代状況との相関において把握することが本研究班の課題となる。

本年は昨年度に引き続き、基礎データのリストアップ作業を遂行した。このほか、創立80周年記念事業として開催された、人文研アカデミー・連続セミナー「人文研80年—人文学の過去・現在・未来—」(10/8～29)、創立80周年記念シンポジウム「共同研究の可能性—人文研80年の回顧と展望—」(11/5)の企画・運営、記念誌『京都大学人文科学研究所創立80周年』(所報人文特別号)の編集、京大総合博物館にて開催された「学術映像博2009」展(8/5～12/13)の「映像と写真でみる東洋学」セクション展示構成、同博物館で開催されたトークイベント「戦前・戦中の中国史蹟フィルム—京大人文研所蔵フィルムを見る—」(10/31)の企画・運営などに協力した。

本研究班は今年度をもって終了し、資料調査の成果を中心とした報告書を作成する予定である。

2/16 文書整理  
3/16 文書整理  
5/11 文書整理  
6/15 文書整理  
7/6 文書整理

8/5 写真資料整理  
10/5 文書整理  
11/9 「聞き書き 荒井健氏」永田知之  
11/27 京大文書館資料調査  
12/7 新村出記念財団資料調査  
12/21 音声資料整理

#### 啓蒙の運命—系譜学の試み(2005.4～2009.3)

班長 富永茂樹

本共同研究は、2009年3月、以下の4報告をもって終了した。その後、各班員から提出された論文をまとめて、研究報告書を公刊すべく鋭意準備の途次にある。

1月16日 「啓蒙論再考—1780年前後のドイツの啓蒙論を中心に」 吉田耕太郎  
2月6日 「エドモンド・パークの啓蒙：『崇高と美の観念の起源』(1757)再読」 小田川大典  
2月20日 「反啓蒙小説としてのフローベール『ブヴァールとペキュシェ』」 松澤 和宏  
3月6日 「恐怖政治と最高存在の式典—政治的なものの宗教・芸術の問題—」 上田 和彦

#### 東方学研究部

#### 西陲發現中國中世寫本研究 班長 高田時雄

19世紀末以来、敦煌・トルファンさらに東トルキスタン各地の遺蹟から数多くの寫本が発見された。しかし、これらの寫本の研究は、資料の公開整備が格段に進んだこと、寫本研究の方法が厳密化したことなどにより、近年全く新しい段階に入ったと言える。本研究班では、漢文寫本を中心とし、歴史・宗教・言語・文学など様々な角度から検討を加え、西陲發現寫本の総合的な研究を展開する。なお昨年度の報告は『敦煌寫本研究年報』(第3號)として刊行された。

2009年1月より12月までに行われた研究発表は以下の通り。

1月26日 敦煌の大藏經文化—再検討の試み

- Silvio VITA  
英國收藏の藏文注音西夏文佛經殘片試  
釋 池田 巧
- 2月9日 『觀無量壽經』諸本の系譜 — 敦煌本と  
日本古寫經本の親近性 — 落合 俊典  
稀觀本斷簡二種 赤尾 榮慶
- 4月27日 敦煌吐魯番文書中供食三etc問題研究  
高 啓安
- 5月11日 『十方千五百佛名經』について  
山口 正晃
- 5月25日 古代チベットの単位 — mda' —  
岩尾 一史
- 俄國收藏の藏文注音西夏文佛經殘片  
No.8363 試釋 池田 巧
- 6月8日 《敦煌變文集》〈下女夫詞〉的整理兼論  
其與「咒願文壹本」,「障車文」,「驅雛  
文」,「上梁文」之關涉問題  
王 三慶
- 書儀と詩格 — 變容する詩文のマニユ  
アルとして 永田 知之
- 7月6日 ロシア科學アカデミー東洋寫本研究  
所藏「唐名例律」殘片小考 辻 正博  
敦煌發現說苑小考(假) 藤井 律之
- 8月7日 藏經音義の敦煌吐魯番本と高麗藏  
高田 時雄
- Dx 11038 書儀をめぐって 松浦 典弘
- 《唐大曆元年河西節度觀察使判牒集》  
研究 金 澄坤
- 唐宋時期敦煌土貢考 余 欣
- 西州における私馬徵用と私群牧  
中田 裕子
- 衛星寫眞を用いたスタイン地圖の精度  
分析とトルファンにおける考古調査へ  
の應用 — Digital Excavation の試み  
— 西村 陽子

## 漢簡語彙の研究

班長 富谷 至

今年度は当研究班の最終年度にあたる。前年度に  
引き続き、居延旧簡を中心としつつ、居延新簡・敦  
煌漢簡中の語彙もあわせて検討し、語義を確定した。  
本研究班で確定させた語彙数は、2009 年末の時点

で、約 2200 項目となった。本研究班で得られた成  
果は、来年度より新規に開催する「漢簡語彙辞典の  
編纂と出版」班へと引き継ぎ、漢簡語彙辞典の公刊  
を最終目標とする。

2009 年度の担当者は次の通りである（排列は担  
当順）。

米田健志、佐藤達郎、藤井律之、森谷一樹、吉村  
昌之、辻正博、大川俊隆、鷺尾祐子、井波陵一、太  
田麻衣子、田中一輝、馬場理恵子、山本宣宏、富谷  
至、角谷常子、鷹取祐司

## 傳統中國の生活空間

班長 田中 淡

中國の傳統的な生活空間および造形、すなわち具  
體的には住まい、宮殿、庭園、あるいは家具配置、  
室内空間、日常生活と儀禮等々の諸相をととして、  
その特質を探る。時代・地方を限定せず、また建築  
空間に限らず、廣義的な意味で日常あるいは儀禮の  
生活空間を対象として、中國學の關連分野および東  
アジア、周邊地域の専門家の参加を得て、多様な研  
究主題をとりあげてゆく。研究發表と併行して會讀  
するテキストとして、明・方以智『通雅』宮室をと  
りあげる。この期間に行われた研究發表・見學會・  
會讀と擔當者は以下の通り。

## 2009 年

- 1月27日 建築の軒を裝飾する絃樂器の系譜 —  
淵源を中國にさぐる — 中安 眞理
- 2月10日 『通雅』卷 38 楨・闌 塚本明日香
- 2月24日 『通雅』卷 38 門限、菴廬  
塚本明日香
- 3月24日 飛鳥の須彌山石と東大寺大佛蓮瓣の須  
彌山圖 外村 中
- 4月28日 『大唐開元禮』の宮殿儀式とその空間  
福田 美穂
- 5月12日 『通雅』卷 38 冬突、倉琅根  
塚本明日香
- 5月26日 『通雅』卷 38 塾、重轅 塚本明日香
- 6月9日 『通雅』卷 38 重轅、光門、蒿宮  
塚本明日香
- 6月23日 『通雅』卷 38 屈柱趺瓦、樸角、覆海  
塚本明日香
- 7月14日 『通雅』卷 38 覆海、闕 塚本明日香

10月13日 見學會 藥師寺舊東院堂跡, 興福寺南  
大門跡

10月27日 『金瓶梅詞話』中の牀榻類について  
高井たかね

11月10日 『通雅』巻38 竈額, 石承  
塚本明日香

11月24日 『通雅』巻38 甃械 塚本明日香  
央瀆 高井たかね

12月8日 『通雅』巻38 屋頭, 厠 高井たかね  
塋壁 塚本明日香

### 三教交渉の研究(2) 班長 麥谷邦夫

本研究班は、「三教交渉の研究」研究班の後を承  
け、引き続き中國中世における儒佛道三教間のかか  
はりをさまざまな角度から研究することを目的に、  
2005年度から5年間の豫定で組織された。昨年は、  
前半は陳垣『道家金石略』所收の隋唐道教關係碑文  
のうち以下の三碑の解讀を行ひ、後半は研究報告書  
の出版に向けて下記の研究發表を行った。

(解讀)

九天使者廟碑

玉眞公主受道靈壇祥應記

修青城山諸觀功德記

(研究發表)

9月16日 呉筠の思想 —「玄綱論」を中心に—  
麥谷 邦夫

六朝隋唐時代の戒壇の形状 — 道宣  
『關中創立戒壇圖經』を中心に

9月30日 崔玄亮の道教生活 深澤 一幸  
唐代禪宗の見性論と『三論元旨』

齋藤 智寛

10月14日 武則天「昇仙太子碑」をめぐる  
古勝 隆一

玄師と經師 — 道教における新しい師  
の觀念とその展開 — 金 志玪

10月28日 全眞教の革新性について—性説の取り  
込みとその超克— 松下 道信

朱子の『老子』解 孫 路易

11月11日 太宗『逍遙詠』について 山田 俊

伊勢神道撰述書『大元神一祕書』と『老子述義』

11月25日 道教における「五辛」と食忌について  
藤井 淳

龜田 勝見

張宇初における「心」について —  
『峴泉集』を中心に— 畑 忍

12月9日 「九天」考 垣内 智之  
『昌道眞言』における内丹の儒教的理  
解 秋岡 英行

### 北朝石刻資料の研究 班長 井波陵一

前年に引き続き、人文科学研究所蔵の北朝石刻  
資料(一部南朝も含む)に関して、文字の対校、お  
よび訓読・語注の作成をおこなった。本年取り上げ  
た資料は、「刁遵墓誌」「賈思伯碑」「高植碑」「張猛  
龍碑」「蕭憺碑」である。

### 長江流域社会の歴史景観 班長 森 時彦

本研究班は、中国の中枢部ともいべき長江流域  
社会が如何に形成され、如何に發展して近代世界と  
向き合うようになり、そして中国社会に如何なる影  
響を及ぼしたのかといった様々な問題を、人文学的、  
とりわけ歴史学的なパースペクティブから多角的に  
解明することを目指してスタートした。

2年目にあたる2009年には以下の報告が行われ  
た。特に若手参加者の報告をめぐって活発な議論が  
交わされたのが目立った。

2月6日 梁啓超の政治学 — 明治日本の国家学  
とブルンチュリ受容を中心に

川尻 文彦

2月20日 20世紀における日中地理学交流史序  
説 — 忘れられた留日地理学者・王の  
生涯 柴田 陽一

3月6日 嘉道年間江南的漕弊 — 州県財政的視  
角 周 健

5月1日 中興鉅局始末 — 土黨から洋式黨へ移  
行する試み 袁 広泉

5月22日 『大同書』と『富国策』— 康有為、  
“Phalange”, 岸田吟香 浜田 直也

6月5日 電影与20世紀中国的民族主義 — 以  
1920年代美国“辱華”電影的中国反  
応为中心 汪 朝光

- 6月19日 成都・武漢・上海 — 都市図の近代的展開 小島 泰雄
- 7月3日 温州経済発展初期のイデオロギー問題 鄭 樂静
- 10月2日 垂簾聴政下の清朝中央における政策決定について 大坪 慶之
- 10月16日 民国初期の地方教育行政と教育会 — 湖南省を事例として 宮原 佳昭
- 11月13日 北京政府時期浙江における審判庁設置状況 田邊 章秀
- 11月27日 孫文『実業計画』の同時代的位相 武上真理子
- 12月11日 民国初期広東における地方自治政策と郷村エリート 宮内 肇

#### 東アジア古典文献コーパスの研究 班長 安岡孝一

本年は、漢文コーパスの制作手順を議論すると同時に、その文法規則および品詞分類に関して意見交換をおこなった。また、漢文コーパスのエンジンとして Mecab を用いることを決定し、その特性について、かなり詳細に検討した。なお、本研究班では、参加者全員が文献や書籍を見ながら論じ合うというスタイルを取っているため、特定の発表者等は記さないことにする。

- 1月20日 『全訳漢字解』の品詞分類『操觚字訣』
- 2月3日 「日本における訓点資料の展開」  
「漢文訓読体と敬語」
- 2月17日 「国語施策と訓点語学」
- 4月3日 「〈訓読〉問題と古文辞学」
- 4月17日 宮下の漢文ダイジェスト  
「表現文法の代用品としての漢文訓読」
- 5月1日 「日本語漢文の訓読とその将来」  
「漢文訓読の現象学」
- 5月15日 古代漢語句構造文法（1）  
「MeCab を用いた古典中国語の形態素解析の試み」
- 6月5日 「専門用語の内部構造解析」  
古代漢語句構造文法（2）
- 6月19日 対句で構造を理解する  
詩中の対句の文法構造

#### 『全唐詩』

第3回ワークショップ：文字 — 新常用漢字表を問う Part 2

- 7月3日 『全唐詩』の律詩における対句頻度
- 7月17日 『全唐詩』の律詩における対句頻度 ver. 2
- 8月7日 とりあえず Mecab を使ってみよう（1）
- 8月21日 とりあえず Mecab を使ってみよう（2）
- 9月4日 漢文コーパスの共有
- 9月18日 MeCab を用いた漢文形態素解析器のための品詞の問題
- 10月2日 漢文コーパスのプロトタイピング
- 10月16日 分類語彙表—増補改訂版データベース
- 11月6日 mecab-kanbun TIPS
- 12月4日 「北大語料庫加工規範」（1）  
Git 入門  
CCL 語料庫検索系統（ネットワーク版）
- 12月18日 「北大語料庫加工規範」（2）  
絵文字が開いてしまった「パンドラの箱」

#### 雀山漢墓竹書残簡の整理 — 中国古代の基礎史料 —

班長 浅原達郎

本題の銀雀山漢墓竹書残簡をとりあえず放置し、目下のところもっとも重要な課題だと考えられる上海博物館蔵楚簡に、全力を注いでいる。

まず、曹沫之陳を読み終え（1月16日～23日）、さらに中弓に関する陳劍氏の論文が公表されたので、これを読んだ（1月30日～2月20日）。引き続き、競建内之・鮑叔牙与隰朋之諫（4月17日～5月22日）、季庚子問於孔子（5月29日～6月26日）、姑成家父（7月3日～17日）、君子為礼（9月25日～10月9日）、弟子問（10月9日～23日）、三德（10月30日～12月18日）と読み進んできた。

この間、『曰古』第13号（4月17日）に郭店楚簡の六德、尊徳義の札記および上海博物館蔵楚簡の曹沫之陳の配列修正案を、『曰古』第14号（9月25日）に郭店楚簡の語叢三、語叢一、語叢二の札記を、それぞれ掲載した。読郭店楚墓竹簡札記は

やっと完結である。

副主任医師)

# 陰陽五行のサイエンス

班長 武田時昌

陰陽五行説は、物類や自然現象の法則性や相互関係を説明する原理として大いに用いられた学説であり、中国の諸分野において独自の理論構造を生み出すパラダイム的な役割を果たした。これまでの研究においては、陰陽五行説の成立過程や配当説、それを援用した漢代の政治思想等に詳しい考察が試みられてきた。しかしながら、三国時代以降の史的展開や理論構造の特質については、十分な検討がなされているわけではないように思われる。そこで、自然科学に限らず思想、宗教から文学、諸技芸に至る多彩な分野において、天人感应、物類相等等を含めた陰陽五行の説明原理が、実際にどのように活用されているのかを分析し、包括的、複眼的な見地からその構造と特色あるいは限界性を考究したいと考えている。

2009 年は、引き続き『五行大義』巻3 を会読し、班員による研究発表を行った。ゲストスピーカーを招いた講演会として、6 月には天文暦算特別講演会、12 月には医学史特別講演会を開催した。また、暦注資料や『武経総要後集』等の読書会も随時行った。

研究発表、特別講演会の日程、演題、発表者は、以下の通りである。

- |         |                              |                |
|---------|------------------------------|----------------|
| 5 月 9 日 | めくら暦を読み解く                    | 宮島 一彦          |
|         | 『地理新書』の五音法                   | 宮崎 順子          |
| 6 月13日  | (天文暦算特別講演会)                  |                |
|         | 新城新蔵の宇宙進化論の歴史的研究             |                |
|         | 株本 訓久(岡山天文博物館研究員)            |                |
|         | 新城新蔵と中国天文学史研究                |                |
|         | 小澤 賢二(安徽師範大学客座教授)            |                |
| 7 月11日  | 日本の暦文化、諸歳神の記載を中心として          | Gerhard Leinss |
|         | 八木の火の禁忌                      | 閻 淑珍           |
| 10月24日  | 古本五嶽真形圖への道 ― 横山潤・大江文坡・平田篤胤 ― | 坂出 祥伸          |
| 12月19日  | (医学史特別講演会)                   |                |
|         | 《傷寒論》条文標注法的討論                |                |
|         | 王 軍(長春中医薬大学副教授)              |                |
|         | 敦煌蔵経洞本《輔行訣》系絹写本              |                |
|         | 趙 懷舟(山西省中医薬研究院)              |                |

## 《輔行訣》大小勾陳騰蛇四方考

劉 忠文(長春中医薬大学副教授)

## 元代の法制(2004. 4 ~ 2009. 3) 班長 岩井茂樹

2004 年に発足した当班は 2009 年 3 月に研究期間を満了した。『元典章』礼部の計 6 巻および『新集至治条例』礼部の会読を 2 年間で終え、その後、中国近世社会の宗教、文化、法制、外交などの分野の研究報告にまじえて、『異国出契』にふくまれる元寇関係の外交文書、『元典章』工部の 3 巻、『元典章』附鈔「都省通例」などの会読をおこなった。成果として、班員による研究論文を『東方学報』に順次掲載しつつあるほか、『元典章』礼部の「礼制一」(朝賀 進表 迎送)、「礼制二」(服色 印章 牌面 誥命)、「礼制三」(婚礼 喪礼 葬礼 祭祀)の校訂本文ならびに訳注を同誌上に掲載した。『元典章』には準拠すべき前例としての例案が多くふくまれている。各条に植松正氏の考案された文書構造を示す図を附すなどの工夫をし、複数の官庁間における公文往来によって例案が形成される過程についての分析結果を示した。礼部の「学校一」、「学校二」、「釈道」、「新集」礼部、工部の「造作一」、「造作二」、「役使」の校訂本文と訳注を今後公表する予定である。また、会読における本文校定の成果を電子テキストに反映させ、精度の高い点校本文をオンラインで検索・閲覧可能とした。

2009 年 1 月 ~ 3 月の活動を下に示す。

- |        |                           |       |
|--------|---------------------------|-------|
| 1 月27日 | 「元朝の文書行政におけるパスパ字使用規定について」 | 中島 楽章 |
|        | 会読『新集至治条例』工部、造作・工役        | 岩井 茂樹 |
| 2 月10日 | 会読『元典章』附鈔「都省通例」           | 植松 正  |
| 2 月24日 | 会読『元典章』附鈔「都省通例」(続)        | 植松 正  |
| 3 月10日 | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 儒吏    | 岩井 茂樹 |
| 3 月24日 | 「契丹・宋間の澶淵体制における外交儀礼と外交文書」 | 古松 崇  |



### 東アジア地域間交渉の文書と言語（2009. 4～2010. 3）

班長 岩井茂樹

「元代の法制」共同研究班の成果を立脚点として新たな共同研究の課題と方法を模索するために、試行的な共同研究として本研究班を発足させた。モンゴル支配のもとでは、言語の翻訳が行政の制度に組みこまれたほか、独自の伝統をもつ集団間における制度や文化の差異に起因する融合や変形などが発生した。『元典章』礼部、工部に含まれる官牘文書の研究をつうじ、これらの過程の重要性を再確認するとともに、東アジアのエスニック集団の交錯と共存の過程を理解するための鍵がこうした過程にあること認識することができた。文字や言葉の交換にとどまらず、制度や文化の翻訳とでも言うべき一般的な問題にまで視野を拡大することも可能であろう。こうした観点にたって、行政や外交の場において用いられた文章の書き手であった書吏の制度とその実態について理解を深めることを目的として『元典章』吏部に含まれる儒吏、職官吏員、令史、書吏、典史、訳史通事、宣使奏差、司吏、典史、獄典、庫子の条を会読するほか、研究報告と討議を交えて研究会を開催した。

2009年4月～12月の活動を下に示す。

- |       |                             |       |
|-------|-----------------------------|-------|
| 4月21日 | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 儒吏      | 岩井 茂樹 |
| 5月19日 | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 儒吏(続)   | 岩井 茂樹 |
|       | 「元明清官牘文における引用終端語について」       | 岩井 茂樹 |
| 6月2日  | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 職官吏員・令史 | 矢木 毅  |
| 6月16日 | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 書吏      | 山崎 岳  |
| 7月7日  | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 書吏(続)   | 岩井 茂樹 |
| 7月21日 | 「崇禎年間の功德碑からみた普陀山への寄進」       | 石野 一晴 |
| 9月15日 | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 宣使奏差・司吏 | 植松 正  |
| 9月29日 | 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 司吏(続)   | 市丸 智子 |

10月20日 「瀋陽塔湾遼代舍利塔とその周辺」

毛利 英介

12月8日 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 司吏(続)

市丸 智子

12月22日 会読『元典章』12, 吏部六, 吏制, 典史・訳史通事

古松 崇志

### 唐代文学の研究

班長 金 文京

昨年度に引き続き、正倉院所蔵、光明皇后親筆の唐代書儀『杜家立成雜書要略』の講読を行い、訳注を作成、本年が最終年度であり、全書の講読を終え、訳注原稿を完成させた。また南京大学域外漢籍研究所の金程宇氏、および上海図書館歴史文献中心の陳先行氏による講演会を開催した。開催日と担当者は以下のとおりである。

4月25日—金文京（二五信）

5月16日—道坂昭廣（二六・二七信）

6月20日—講演会（金程宇）：「近十年唐宋文獻研究的新史料與新問題」

7月25日—愛甲弘志（二八・二九信）

10月24日—釜谷武志（三四信）・乾源俊（三五信）

11月28日—浅見洋二（三二・三三信）

12月19日—大野修作（三十信）・Wittern. C（三一信）

21年1月30日—斎藤茂（三六信）・講演会（陳先行）：「明清時代の稿本・抄本・校本の鑑定について」

『杜家立成雜書要略』の訳注は原稿整理のうえ、刊行する予定である。

### 真諦三蔵とその時代

班長 船山 徹

本年度は1月より6月初旬にかけて班長である船山がハーヴァード大学神学部にて客員教授として合衆国に出張したため、例外的措置として、その間の研究班は、班員諸氏が研究報告書作成に向けて準備作業を進める期間とした。

6月以降には以下の活動を行い、最終報告書作成にむけての各自の発表と佚文資料原稿作成の再検討を始めた。また昨年同様、本年も各回終了後に、本研究班メーリングリストを通じて、班員諸氏による活発な意見交換と情報提供がなされたことをも補足

しておきたい。

- 6月12日 「引用と原文：真諦佚文の信頼性をめぐって」 船山 徹
- 6月26日 「真諦『九識章』『仁王般若經疏』『十七地論』」 大竹 晋
- 7月10日 「中国仏教史書にみえる真諦」 齋藤 智寛
- 9月18日 「真諦佚文補遺（中論疏、中辺分別論疏、如実論疏、大空論疏）」 大竹 晋・池田 将則
- 10月2日 「日本古文書・諸目録に残る真諦関係著作の情報について」 藤井 淳
- 同日 「『歴代三宝紀州』真諦伝訳注稿の検討」 船山 徹
- 10月16日 「『統高僧伝』真諦伝の訳注稿の検討其一」 船山 徹
- 11月13日 「『統高僧伝』真諦伝の訳注稿の検討其二」 船山 徹
- 12月23日 マイケル・ラディッチ博士（ヴィクトリア大学ウェリントン校講師，本研究班海外特別班員）による特別講演「阿闍世王の指の謎―「婆羅留枝」と「折指」という名称をめぐって」

#### 中国古鏡の研究

班長 岡村秀典

漢鏡・三国両晋鏡・紀年鏡に分けて銘文の集成と注釈の作成を実施し，前漢鏡銘にかんする論文と集釋を『東方学報』京都第84冊に発表した。研究会の会読と研究発表は以下のとおり。

- 1月13日 前漢鏡銘の会読 岡村
- 1月20日 紀年鏡銘の会読 光武英樹
- 1月27日 前漢鏡銘の会読 岡村
- 2月3日 漢鏡七期の銘文について 森下章司
- 2月10日 前漢鏡銘の会読 岡村
- 2月17日 前漢鏡銘の研究 岡村
- 4月21日 紀年鏡銘の会読 光武
- 4月28日 三国両晋鏡銘の会読 森下
- 5月12日 後漢鏡銘の会読 岡村
- 5月19日 紀年鏡銘の会読 光武
- 5月26日 青銅鏡の蛍光X線分析 廣川 守
- 6月2日 三国両晋鏡銘の会読 森下

- 6月9日 後漢鏡銘の会読 岡村
- 6月16日 紀年鏡銘の会読 光武
- 6月23日 三国両晋鏡銘の会読 森下
- 6月30日 後漢鏡銘の会読 岡村
- 7月7日 紀年鏡銘の会読 光武
- 7月14日 三国両晋鏡銘の会読 森下
- 7月21日 後漢鏡銘の会読 岡村
- 9月28日 紀年鏡銘の会読 光武
- 10月6日 二世紀の紀年鏡 原田三寿
- 10月13日 後漢鏡銘の会読 岡村
- 10月20日 三国両晋鏡銘の会読 光武
- 10月27日 紀年鏡銘の会読 光武
- 11月10日 後漢鏡銘の会読 岡村
- 11月17日 三国両晋鏡銘の会読 森下
- 11月24日 紀年鏡銘の会読 光武
- 12月1日 後漢鏡銘の会読 岡村
- 12月8日 三国両晋鏡銘の会読 森下
- 12月15日 紀年鏡銘の会読 光武
- 12月22日 朝陽市北塔をめぐって 杜 斌  
劉 大志

#### 中国社会主义文化の研究

班長 石川禎浩

本研究班は，20世紀中国の社会主义文化の諸相を主に歴史的視点から研究することを目指している。4年目の今年も，昨年に引き続き，京都大学現代中国研究拠点（人文研附属現代中国研究センター）の研究グループ1の事業という性格を合わせ持った活動を行い，活発な議論を繰り広げることができた。研究班最終年度にあたる今年は，隔週の研究会を開催すると並行して，報告論文集のとりまとめを行い，計17篇の論文を収めた論文集が2010年度はじめに刊行される見込みである。2009年の各回の報告は以下の通りである。

- 1月30日 「周作人の「鬼・怪」論―柳田国男と比較して」 王 蘭
- 2月13日 「重慶における国防映画の制作について―『東亜之光』を中心に」 韓 燕麗
- 2月27日 「ヤルタ「密約」をめぐる重慶中ソ交渉」 吉田 豊子
- 4月24日 「日中戦争期における日英関係と「蒙



|        |  |       |
|--------|--|-------|
|        | 疆政権」   | 田中 剛  |
| 5月8日   | 「中国演劇、20世紀末の転換」                              | 瀬戸 宏  |
| 5月15日  | 「中国革命と陽明学 ― 荻生茂博「東アジアの〈陽明学〉への中国研究者よりする回答の試み」 | 緒形 康  |
| 6月12日  | 「『党内民主は党の生命である』― 中国共産党の近年の試みをめぐって」           | 江田 憲治 |
| 6月26日  | 「政治・市場・藝術 ― 文革時期的中国電影」                       | 汪 朝光  |
| 7月10日  | 「周作人と『遠野物語』」                                 | 王 蘭   |
| 9月25日  | 「中興炭礦の成長と転落の軌跡 ― 北伐戦争中における中興没収事件を中心に」        | 袁 廣泉  |
| 10月9日  | 「小川琢治の中国研究とその中国への影響」                         | 柴田 陽一 |
| 10月23日 | 「日中戦争期における都市文藝人と辺疆 ― 抗戦映画『塞上風雲』をめぐって」        | 島田 美和 |
| 11月6日  | 「1920年代中国青年党「国家主義」イデオロギー初探」                  | 小野寺史郎 |
| 11月20日 | 「文革期の文学出版状況」                                 | 瀬辺 啓子 |
| 12月4日  | 「陳炯明の国家建設論 ― 「中国統一芻議」の再検討」                   | 金 世昊  |
| 12月18日 | 「中国「新左派」の民主化論 ― 王紹光を中心に」                     | 瀧田 豪  |

#### 南アジア北辺地域における文化交流の諸相

班長 稲葉 稔

本研究班は、南アジアが中央アジア、西アジアと接触する境界領域周辺で、古代から近代にかけて生じた接触・交流・衝突・融合の様々な事例を可能な限り網羅的に検討し、前近代における文化交流をどのように捉えうるかを考察することを目的として、2009年4月に新たに組織された。本年は以下に記すようなタイトルで研究報告と討論を行った。

- 4月24日 インタロダクション：研究班の活動方針の検討
- 5月22日 「前近代のカーブル：東部アフガニスタンにおける大都市の変遷」

|        |                                   |                       |
|--------|-----------------------------------|-----------------------|
|        |                                   | 稲葉 稔                  |
| 6月5日   | 「バーミヤーン遺跡の最新の調査と研究動向」             | 岩井 俊平                 |
| 6月19日  | 「ゴール朝とホラズムシャーフ」                   | 井谷 鋼造                 |
| 7月17日  | 「ヤカウラング周辺の遺跡と仏教伝播の西への道」           | 井上 陽                  |
| 11月6日  | 「チャガタイ・ハーン国とインド」                  | 川本 正知                 |
| 11月20日 | 「クシャーーン朝に関する近年の研究」                | 宮本 亮一                 |
| 12月4日  | 「【調査報告】トルコ・イラン・トルクメニスタンにおける石窟の調査」 | エルダル・キュチュクヤルチン / 井上 陽 |
| 12月18日 | 「北辺地域とインドの接点：13-16世紀のマルチーン」       | 二宮 文子                 |

#### 中国絵画の総合的研究（2005. 4～2009. 3）

班 長 曾布川寛

|       |   |       |
|-------|---|-------|
| 2月2日  | ワークショップ「遼代の佛教美術」                            |       |
|       | 「北京天寧寺塔とその塑像」                               | 向井 佑介 |
|       | 「慶州白塔の創建をめぐって ― 契丹王族の仏教信仰 ―」                | 古松 崇志 |
|       | 「雲岡第三窟三尊大像と遼代佛教彫刻」                          | 曾布川 寛 |
| 2月16日 | 「唐代の摩竭（マカラ）文について ― 怪魚の図像の系譜と絵画・工芸史における意義 ―」 | 竹浪 遠  |

## 個 人 研 究

### 人文学研究部

|                        |       |
|------------------------|-------|
| 前近代日本の文明史的研究           | 横山 俊夫 |
| 近代東アジアにおける日本の法と政治      | 山室 信一 |
| フランス革命と近代的主体の成立        | 富永 茂樹 |
| 近代朝鮮の政治と社会             | 水野 直樹 |
| 在日米軍を中心とする軍事共同体の人類学的研究 | 田中 雅一 |

## 人 文 学 報

|                           |       |                        |       |
|---------------------------|-------|------------------------|-------|
| 文学理論の研究                   | 大浦 康介 | 古代中国の考古学研究             | 岡村 秀典 |
| ヴェーダ文献の生成と伝承の研究           | 藤井 正人 | イスラーム東漸史の研究            | 稲葉 稔  |
| 人種・エスニシティ論                | 竹沢 泰子 | 川西走廊の漢藏諸語の記述言語学的研究     |       |
| 戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク        |       |                        | 池田 巧  |
|                           | 籠谷 直人 | インド・中国における仏教の学術と実践     |       |
| 近代天皇制の文化史的研究              | 高木 博志 |                        | 船山 徹  |
| 近代日本の芸術と西洋                | 高階絵里加 | 文字コード理論                | 安岡 孝一 |
| 現代社会における生物学・生命科学          | 加藤 和人 | 仏教研究知識ベース — 禅仏教を例として   |       |
| 音楽におけるロマン派とメロドラマ的音楽       |       | ウィッテルン, クリスティアン        |       |
|                           | 岡田 暁生 | 中国共産党史の研究              | 石川 禎浩 |
| 19世紀末イギリスのポピュラー・コンサヴァティ   |       | 秦漢時代の制度史               | 宮宅 潔  |
| ズム                        | 小関 隆  | 高麗官僚制度研究               | 矢木 毅  |
| 近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想         | 王寺 賢太 | 中国注釈学史研究               | 古勝 隆一 |
| 幕末期の畿内・近国社会               | 岩城 卓二 | 中国近世の国家支配の研究           | 古松 崇志 |
| 精神分析的知を思想的に位置づける試み        |       | 文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究  |       |
|                           | 立木 康介 |                        | 守岡 知彦 |
| ザガフカスの「義賊」と戦争             | 伊藤 順二 | 中国古代中世の官制史             | 藤井 律之 |
| 近代日本民俗誌システムの研究            | 菊地 暁  | モンゴル時代の文化政策と出版活動       | 宮 紀子  |
| 近代西洋医学発展史研究および身体論         | 田中祐理子 | 明代後期北虜南倭時代の中国社会        | 山崎 岳  |
| 近代朝鮮在住日本人社会の研究            | 李 昇燁  | 中国家具とその使用に関する研究        | 高井たかね |
| 近代詩の虚構性                   | 久保 昭博 | 中国唐宋の文学批評              | 永田 知之 |
| 再構築されるオリシャ崇拝 — 異なる「人種・宗教」 |       | 中国中世の考古学研究             | 向井 佑介 |
| をとりこむアフリカ系アメリカ人の社会運動 —    |       | 近代中国におけるナショナリズムと政治シンボル |       |
|                           | 小池 郁子 |                        | 小野寺史郎 |
| 戦間期日本の大衆社会・文化             | 黒岩 康博 | 中国北魏時代の仏教石窟寺院          | 安藤 房枝 |
| 古代インド家庭儀礼の研究              | 梶原三恵子 |                        |       |
| フィリピンにおける差異と共同性の構築        |       |                        |       |
|                           | 日下 渉  |                        |       |

### 東方学研究所

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 中国の小説、演劇及び説唱文学の歴史 | 金 文京  |
| 中国建築の様式・技法・空間     | 田中 淡  |
| 近代中国の綿紡織業         | 森 時彦  |
| 道教思想研究            | 麥谷 邦夫 |
| 敦煌写本の言語史的研究       | 高田 時雄 |
| 中国古代中世の法制         | 富谷 至  |
| 清代の文化と社会          | 井波 陵一 |
| 中国科学の思想史的考察       | 武田 時昌 |
| 近代中国の財政と社会        | 岩井 茂樹 |
| 先秦時代の金文           | 浅原 達郎 |

## 事 業 概 況

### 第5回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

2009年3月7日

於 学術総合センター（千代田区一ツ橋）

漢字文化と西洋近代思想の出会い —

梁啓超を中心に

民族主義と梁啓超 小野寺史郎

「眠れる獅子」のイメージと梁啓超

石川 禎浩

西洋近代経済学と梁啓超 森 時彦

### 退職記念講演会

2009年3月19日

於 本館大会議室

中国図像学と皇帝の意志表象

曾布川 寛

文化講座（人文研アカデミー /  
NHK 大阪文化センター）

2009年4月, 5月, 6月, 7月, 8月, 9月

於 NHK 大阪文化センター  
歴史のなかの三都物語 — 近世～近代の奈良・京  
都・大阪

4月16日 鹿とともに生きる — 奈良 —  
天理大学おやさと研究所研究員  
幡鎌 一弘

5月21日 吉野山を訪れたひとびと — ある旅館  
の宿帳から — 黒岩 康博

6月18日 明治維新と京都の天皇 高木 博志

7月16日 明治維新を担った京都人 京都市歴史  
資料館主任歴史調査員 小林 丈広

8月20日 武士がみた大阪 岩城 卓二

9月17日 商都・工都・軍都の大阪  
佛敎大学文学部人文学科教授  
原田 敬一

Spectacle（人文研アカデミー / 関西日仏学館）

2009年5月20日 於 関西日仏学館稲畑ホール  
ラブレール独り芝居「借金礼讃」

役者・演出家 ディディエ・ガラス  
解説 大浦 康介

特別対談（人文研アカデミー）

2009年6月2日 於 本館大会議室  
21世紀の音楽批評を考える

岡田 暁生  
慶応義塾大学法学部准教授 片山 杜秀

夏期公開講座（人文研アカデミー）

2009年7月4日 於 本館共通一講義室  
名作再読 — いま読んだらこんなに面白い（4）

貧民窟の食生活 — 松原岩五郎『最暗  
黒の東京』

東京大学大学院農学  
生命科学研究科講師 藤原 辰史  
巡礼と都市 — ナーセル・ホスロー『旅  
行記』を読む 稲葉 穰  
都市を徘徊する — エドガー・A・ポー  
『群衆の人』の世界 富永 茂樹

アスニー・ゴールデンエイジアアカデミー  
（人文研アカデミー /

京都市生涯学習総合センター）

2009年9月 於 京都アスニー

鎖国前夜の日本

9月4日 倭寇とキリシタン — アジアから日本  
へ — 山崎 岳

9月11日 唐人町と媽祖 — 草の根の海域交流を  
追う —

天理大学国際文化学部教授  
藤田 明良

9月18日 和様化するやきもの

茶道資料館学芸員  
降矢 哲男

9月25日 南蛮科学を学んだ人々 武田 時昌

連続セミナー（人文研アカデミー）

2009年10月 於 本館共通一講義室  
人文研80年 — 人文学の過去・現在・未来 —

10月8日 助手研究班があった頃のこと、そして  
今…… 印刷博物館館長 樺山 紘一

10月15日 人文研・東方部と私  
京都大学人文科学研究所名誉所員  
小野 和子

10月22日 京都大学人文科学研究所と人類学  
坂の上の雲ミュージアム館長  
松原 正毅

10月29日 1970年代の人文研における日本文化  
研究について 林原美術館館長  
熊倉 功夫

創立80周年記念シンポジウム（人文研アカデミー）

2009年11月5日 於 芝蘭会館稲盛ホール  
共同研究の可能性 — 人文研80年の回顧と展望

社会学者 加藤 秀俊  
哲学者 鶴見 俊輔  
大谷大学博物館館長 砺波 護  
京都大学名誉教授 松尾 尊兌  
司会 金 文京  
岡田 暁生

lecture（人文研アカデミー）

2009年11月, 12月 於 本館セミナー室一  
ラカンを読む

11月12日, 19日, 26日, 12月3日, 10日, 17日

立木 康介

実習解説

情報交換

山崎 岳

井波 陵一

漢字情報研究センター講習会

・2009年度漢籍担当職員講習会（初級）

第1日（10月5日）

オリエンテーション

岩井 茂樹

漢籍について

井波 陵一

カードの取り方ー漢籍整理の実践

梶浦 晋

第2日（10月6日）

工具書について

永田 知之

漢字目録カード作成実習

第3日（10月7日）

目録検索とデータベースの検索

安岡 孝一

漢籍データ入力実習（1）

第4日（10月8日）

和刻本について

文学研究科准教授 宇佐美文理

漢籍データ入力実習（2）

第5日（10月9日）

朝鮮本について

矢木 毅

実習解説

山崎 岳

書庫見学・質疑応答

井波 陵一

・2009年度漢籍担当職員講習会（中級）

第1日（11月16日）

オリエンテーション

岩井 茂樹

経部について 文学研究科教授

池田 秀三

叢書部について

高井たかね

叢書と漢籍データベース

安岡 孝一

第2日（11月17日）

史部について

藤井 律之

漢籍データ入力実習（1）

第3日（11月18日）

子部について

武田 時昌

漢籍データ入力実習（2）

第4日（11月19日）

集部について

人間・環境学研究科准教授 道坂 明廣

漢籍データ入力実習（3）

第5日（11月20日）

漢籍目録と文献類目

井波 陵一

所 員 動 静

・曾布川寛教授（東方学研究部）は、定年により退職（3月31日付）。

・坂本優一郎助教（人文学研究部）は、辞任の上（3月31日付）、大阪経済大学専任教育職員（講師）に就任。

・倉島哲助教（人文学研究部）は、辞任の上（3月31日付）、関西学院大学社会学部専任講師に就任。

・田辺明生准教授（人文学研究部）は、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授就任（4月1日付）。

・水野直樹教授（人文学研究部）を当研究所長に併任（4月1日～2011年3月31日）。

・岩井茂樹教授（東方学研究部）を附属東アジア人文情報学研究センター長に併任する（4月1日～2011年3月31日）。

・森時彦教授（東方学研究部）を附属現代中国研究センター長に併任（4月16日～2011年3月31日）。

・稲葉穰准教授（東方学研究部）は当研究所（東方学研究部）教授に昇任（4月1日付）。

・井波陵一教授（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。

・武田時昌教授（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。

・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。

・安岡孝一准教授（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。

・永田知之助教（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。

- ・向井佑介助教（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。
- ・守岡知彦助教（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。
- ・山崎岳助教（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。
- ・梶浦晋助手（附属漢字情報研究センター）は、附属東アジア人文情報学研究センターに配置換（4月1日）。
- ・安藤房枝を助教（東方学研究部）に採用（4月1日）。
- ・白井哲哉を特定研究員（科学研究）に採用（4月1日）。
- ・VITA, Silvio イタリア国立東方学研究所所長は、客員教授（文化研究創成研究部門、4月1日～2010年3月31日）。
- ・JACQUET, Benoit Marcel Maurice フランス国立極東学院京都支部長は、客員准教授（文化研究創成研究部門、4月1日～2010年3月31日）。
- ・袁広泉 大学共同利用機関法人人間文化研究機構地域研究推進センター研究員は、客員准教授（附属現代中国研究センター、4月1日～2010年3月31日）。
- ・藤原辰史（人文学研究部）助教は、辞任の上（5月31日付）、東京大学大学院農学生命科学研究科講師就任。
- ・MAHARJAN, Keshav Lal 広島大学大学院国際協力研究科教授は、特任教授（10月1日～2010年3月31日）。
- ・梶原三恵子を助教（人文学研究部）に採用（10月1日）。
- ・日下渉を助教（人文学研究部）に採用（11月16日）。
- ・加藤和人准教授（人文学研究部）は、受託研究費により、1月5日大阪発、The California Institute for Regenerative Medicine 及び Harvard Stem Cell Institute に於いてアメリカにおける

- 新 iPS 細胞活用の調査研究に関する社会倫理、ガイドラインの情報交換及び調査を行い、1月11日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月13日大阪発、重慶市図書館及び上海図書館に於いて複数文化接触に関する文献調査を行い、1月18日帰国。
- ・山崎岳助教（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月6日大阪発、石浦港等に於いて南中国の漁業および漁民社会に関する調査、寧波大学に於いて日中海域交流に関する国際シンポジウムに参加、船山図書館に於いて南中国の漁業と漁民文化に関する資料収集等を行い、1月20日帰国。
- ・倉島哲助教（人文学研究部）は、日本学術振興会経費により、2007年1月23日大阪発、マンチェスター大学に於いて客員研究員として調査研究を行い、2007年10月23日一時帰国し、10月25日出国。2007年12月14日再度一時帰国し、12月21日再出国。2008年7月25日再々度一時帰国、2008年8月12日出国、マンチェスター大学に於いて客員研究員として調査研究及び太極拳センターにて現地調査を行い、2009年1月22日帰国。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月7日大阪発、コロンボ大学に於いて宗教マイノリティについての調査を行い、1月24日帰国。
- ・小池郁子助教（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月29日大阪発、ベッカム区域ナイジェリア人共同体に於いて宗教的活動、民族団体に関する資料文献収集及び実地調査を行い、2月13日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、2月10日大阪発、仁荷大学韓国研究所に於いて連続講義・質疑及び資料調査を行い、2月16日帰国。
- ・藤井正人教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月10日大阪発、イリンジラクダ村及びパンニャール村に於いてヴェーダ伝承及び写本の調査を行い、2月21日帰国。
- ・矢木毅（東方学研究部）は、文部科学省科学研究

- 費補助金により、2月20日大阪発、国立中央図書館に於いて近世朝鮮時代の政治文化に関する資料収集を行い、2月23日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属漢字情報研究センター）は、2月22日大阪発、中央研究所に於いて TELDAP 2009 国際会議に出席、研究報告を行い、2月28日帰国。
  - ・岡村秀典教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月23日大阪発、国立博物館に於いて仏教関連文物の調査、サーンチー寺院に於いてストゥーパの調査、マトゥラー博物館に於いてマトゥラー出土文物の調査、インド博物館に於いて仏教関連文物の調査を行い、3月9日帰国。
  - ・向井佑助教（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月23日大阪発、国立博物館に於いて仏教関連文物の調査、サーンチー寺院に於いてストゥーパの調査、マトゥラー博物館に於いてマトゥラー出土文物の調査、インド博物館に於いて仏教関連文物の調査を行い、3月9日帰国。
  - ・李昇燁助教（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月1日大阪発、中央研究院・台湾史研究所に於いて日本の台湾統治と人種論に関する文献調査を行い、3月10日帰国。
  - ・田中雅一教授（人文学研究部）は、受託研究費により、2月28日大阪発、マドラス大学に於いて被災地の環境問題についてのデータ収集を行い、3月12日帰国。
  - ・立木康介准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月9日大阪発、École Normale Supérieure に於いて「ひと概念の再構築をめざして—人文学・アート・医療をつなぐ問いかけ」プロジェクトのための資料・文献収集を行い、3月19日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、3月19日大阪発、高麗大藏經研究所に於いて学術会議に出席、論文を宣讀し、3月22日帰国。
  - ・田辺明生准教授（人文学研究部）は、3月13日大阪発、Martin Chautiari に於いてネパールフィールドスクール・オリエンテーション及び講義、CDO（NGO）及び周辺地域に於いてネパールフィールドスクール・フィールド演習を行い、3月23日帰国。
  - ・藤井正人教授（人文学研究部）は、受託研究費により、3月19日大阪発、トリチュール近郊に於いてヴェータ伝承地におけるインド伝承医学の調査を行い、3月26日帰国。
  - ・王寺賢太准教授（人文学研究部）は、3月14日大阪発、国際哲学コレージュに於いて人文科学研究部と国際哲学コレージュとの協定に基づき、研究者交流、講演等の実施を行い、3月30日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、3月25日大阪発、Institute of Oriental Manuscripts, Russian Academy of Sciences に於いてロシア中央アジア探検隊に関する共同研究の打ち合わせを行い、4月1日帰国。
  - ・富永茂樹教授（人文学研究部）は、4月8日大阪発、国立極東学院、高等研究院に於いて研究セミナーに出席、国立図書館に於いて資料収集を行い、4月18日帰国。
  - ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属東アジア人文情報学研究センター）は、4月12日大阪発、漢達文庫に於いて資料収集及び研究打ち合わせ、中華電子仏典協会に於いて資料収集及び研究打ち合わせを行い、4月18日帰国。
  - ・金文京教授（東方学研究部）は、4月26日大阪発、成功大学に於いて講演、資料収集を行い、4月30日帰国。
  - ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属東アジア人文情報学研究センター）は、5月3日大阪発、Mahachulalongkornrajavidyalaya University に於いて仏典資料の国際ネットワークに関するワークショップに出席し、5月8日帰国。
  - ・船山徹准教授（東方学研究部）は、1月20日大阪発、ハーヴァード大学に於いて客員教授として授業担当及び資料収集を行い、6月1日帰国。
  - ・石川禎浩准教授（附属現代中国研究センター）は、6月1日大阪発、成均館大学に於いて学術講演並びに研究打ち合わせを行い、6月4日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、5月



- 31 日大阪発, Eötvös Loránd Univ. に於いて学術会議に出席, 論文を宣讀, Oriental Institute of the Czech Academy of Sciences に於いて中央アジア出土文献に関する資料収集を行い, 6 月 7 日帰国。
- ウィッテルン, クリスティアン准教授 (附属東アジア人文情報学研究センター) は, 6 月 5 日大阪発, His-Lai Temple に於いて Council on the translation of Buddhist Sutras に出席し, 6 月 10 日帰国。
  - 宮紀子助教 (東方学研究部) は, 5 月 15 日大阪発, 北京大学歴史系, 北京大学図書館, 中国国家図書館等に於いて学術交流, 講義, 資料調査を行い, 6 月 13 日帰国。
  - 富谷至教授 (東方学研究部) は, 文部科学省科学研究費補助金により, 6 月 15 日発, 厦門大学において国際シンポジウム「東アジアにおける礼と正義」の打ち合わせ及び「東アジアの死刑」中国語版出版に関する打ち合わせを行い, 6 月 17 日帰国。
  - 岩井茂樹教授 (東方学研究部) は, 6 月 17 日大阪発, 復旦大学に於いて国際会議に出席, 浙江省平湖市に於いて乍浦鎮における現地調査を行い, 6 月 21 日帰国。
  - 高田時雄教授 (東方学研究部) は, 文部科学省科学研究費補助金により, 6 月 16 日大阪発, Institute of Oriental Studies, Kazakhstan に於いて学術会議に出席, 論文を宣讀, Inst. of Archaeology, Kyrgyzstan に於いて中央アジア出土文献に関する資料収集を行い, 6 月 24 日帰国。
  - 加藤和人准教授 (人文学研究部) は, 受託研究費 (一部先方負担) により, 6 月 14 日成田発, ハーバード大学に於いて「先端幹細胞研究における倫理と政策」会議に参加し情報交換および調査を行い, TANE + 1 LLC に於いて幹細胞研究を中心とした米国における科学情報の発信に関する聞き取り調査を行い, Welcome Trust Conference Centre に於いて「国際がんゲノムコンソーシアム (ICGC) 第 2 回ワークショップ」に参加し, 情報交換及び提言を行い, Human Genetics Commission に於いて意見交換と情報収集を行い, 6 月 26 日帰国。
  - 金文京教授 (東方学研究部) は, 6 月 21 日大阪発, 成均館大学に於いて連続講義及び資料収集を行い, 6 月 26 日帰国。
  - 池田巧准教授 (東方学研究部) は, 文部科学省科学研究費補助金により, 6 月 23 日大阪発, 中央民族大学, 西南民族大学, 中国藏学研究中心に於いてギャロン語方言に関する資料収集と調査打合せを行い, 6 月 28 日帰国。
  - 加藤和人准教授 (人文学研究部) は, 受託研究費 (一部先方負担) により, 7 月 6 日成田発, Hotel Diagonal Zero に於いて国際ワークショップ「iPS cells: mapping the Policy issues」に出席し, パネリストとして発表, Barcelona International Convention Center に於いて 7th ISSCR に出席し, 研究発表を行い, 7 月 13 日帰国。
  - 金文京教授 (東方学研究部) は, 文部科学省科学研究費補助金により, 7 月 27 日大阪発, 四川大学に於いて中国俗文学国際学術検討会参加及び論文発表を行い, 7 月 31 日帰国。
  - 石川禎浩准教授 (附属現代中国研究センター) は, 7 月 20 日大阪発, 厦門大学, 湖南省図書館, 湖南省档案馆, 国家図書館に於いて中国近現代史料調査を行い, 8 月 1 日帰国。
  - 古松崇志助教 (東方学研究部) は, 7 月 24 日大阪発, 旅順博物館に於いて収蔵品の調査, 巴林右旗博物館, 慶州古城遺跡, 懷州城, 赤峰市博物館等に於いて中国内蒙古自治区赤峰地区の契丹時代の考古遺跡と現状のフィールド調査を行い, 8 月 1 日帰国。
  - 向井佑介助教 (附属東アジア人文情報学研究センター) は, 7 月 24 日大阪発, 旅順博物館に於いて収蔵品の調査, 巴林右旗博物館, 慶州古城遺跡, 懷州城, 赤峰市博物館等に於いて中国内蒙古自治区赤峰地区の契丹時代の考古遺跡と現状のフィールド調査を行い, 8 月 1 日帰国。
  - 高田時雄教授 (東方学研究部) は, 文部科学省科学研究費補助金により, 8 月 3 日大阪発, 国立成功大学に於いてロシア所蔵敦煌文献に関する研究打合せを行い, 8 月 6 日帰国。



- ・高木博志准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、8月6日大阪発、北京師範大学珠海分校国際学術交流中心に於いて民間文化フォーラムに出席及び研究報告を行い、開平市内に於いて歴史遺産の調査を行い、8月9日帰国。
- ・籠谷直人教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月2日大阪発、ユトレヒト大学に於いて国際経済史学会に出席し研究発表を行い、イギリス公文書館に於いて旧RPO資料に関する現地調査及び資料調査を行い、8月15日帰国。
- ・古勝隆一准教授（東方学研究部）は、2008年8月30日大阪発、ハーバード大学燕京研究所に於いて中国思想史研究を行い、2009年8月15日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、8月12日大阪発、友石大学において日韓人文社会学会参加、論文発表、資料収集及び研究打合せ、首都師範大学に於いて中国古典小説戯曲文献及デジタル国際検討会参加及び論文発表、成均館大学に於いて中国小説に関する資料収集を行い、8月22日帰国。
- ・菊地暁助教（人文学研究部）は、8月19日大阪発、東国大学に於いて「文化財保護制度における世界遺産条約の戦略的受容と運用に関する日韓比較研究」研究会に出席し、外岩民族マウル及び水原市華城に於いて「文化財保護制度における世界遺産条約の戦略的受容と運用に関する日韓比較研究」現地調査を行い、8月23日帰国。
- ・池田巧准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月4日大阪発、中央民族大学、西南民族大学及び中国蔵学研究中心に於いてギャロン語方言にかんする資料収集と調査打合せを行い、8月24日帰国。
- ・山崎岳助教（附属東アジア人文情報学研究センター）は、8月23日大阪発、四川省档案馆、上海図書館に於いて東アジア史上における中国訴訟社会の研究のための資料収集を行い、8月30日帰国。
- ・森時彦教授（東方学研究部）は、共同研究費により、8月21日大阪発、社会科学院近代史研究所に於いて学術講演、研究打ち合わせ及び資料収集、貴陽大学において国際シンポジウム出席及び基調講演、上海市档案馆に於いて資料収集を行い、9月3日帰国。
- ・石川禎浩准教授（東方学研究部）は、8月25日大阪発、カーリエ博物館、イスタンブール大学、アクロポリス博物館、アテネ国立考古博物館に於いて港湾都市文化の調査、研究打合せを行い、9月5日帰国。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、受託研究費により、8月31日大阪発、ソウル郊外に於いてソウル郊外での環境問題の調査と関係団体との交流を行い、9月5日帰国。
- ・小池郁子助教（人文学研究部）は、受託研究費により、8月31日大阪発、ソウル郊外に於いてソウル郊外での環境問題の調査と関係団体との交流を行い、9月5日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9月2日大阪発、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所において「敦煌学－更なる百年」国際学術会議に出席及び資料収集を行い、9月9日帰国。
- ・永田知之助教（附属東アジア人文情報学研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9月2日大阪発、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所において「敦煌学－更なる百年」国際学術会議に出席及び資料収集を行い、9月9日帰国。
- ・岩井茂樹教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9月7日大阪発、中国国家図書館に於いてInternational Conference Chinese Studiesに参加し、9月10日帰国。
- ・小関隆准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月1日大阪発、エディンバラ市内及びロンドン市内に於いて第1次世界大戦期のイギリスに関する史料の調査・収集を行い、9月13日帰国。
- ・立木康介准教授（人文学研究部）は、文部科学省

科学研究費補助金により、9月3日大阪発、École Normale Supérieure に於いて「精神分析運動の歴史的展開と今日的意義を啓蒙思想の座標軸上で捉え直す試み」のための資料、文献収集を行い、9月18日帰国。

- ・岡村秀典教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月9日大阪発、思燕寺遺址に於いて北魏寺院址出土文物の調査、中国社会科学院考古研究所に於いて調査の打合せ、河北省文物研究所に於いて北魏定州塔址出土文物の調査を行い、9月19日帰国。
- ・向井佑介助教（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月9日大阪発、思燕寺遺址に於いて北魏寺院址出土文物の調査、中国社会科学院考古研究所に於いて調査の打合せ、河北省文物研究所に於いて北魏定州塔址出土文物の調査を行い、9月19日帰国。
- ・加藤和人准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9月15日大阪発、Rimrock Resort Hotel に於いて「5th International DNA Sampling Conference」に出席、研究発表を行い、9月21日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月18日大阪発、ハンブルグ大学に於いてシンポジウム「21世紀の儒教」に参加、発表、ミュンスター大学に於いて「儀礼と刑罰」に関する研究打合せ、ライデン大学に於いて「東アジアの死刑」英語版出版の打合せを行い、9月29日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、9月26日大阪発、清華大学に於いて講演及び史料収集を行い、9月30日帰国。
- ・古松崇志助教（東方学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金により、9月1日大阪発、北京大学、中国国家図書館に於いて文献資料調査・現地フィールド調査及び学術講演を行い、9月30日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、9月1日大阪発、成均館大学東亜学術研究院に於いて連続講演及び東アジア比較文学に関する共同研究参加、中央研究院歴史言語研究所に於いて東亜文化意象之形塑

（国際学術討論会）参加、論文発表、資料収集及び研究打合せを行い、10月1日帰国。

- ・森時彦教授（東方学研究部）は、10月3日大阪発、中央研究院に於いて国際シンポジウム出席及び基調講演を行い、10月7日帰国。
- ・宮宅潔准教授（東方学研究部）は、2008年10月15日大阪発、ミュンスター大学に於いて中国古代刑罰制度の研究を行い、2009年10月14日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、10月12日大阪発、成均館大学東亜学術研究院に於いて連続講演及び東アジア比較文学に関する共同研究に参加し、10月16日帰国。
- ・稲葉穰教授（東方学研究部）は、9月27日大阪発、イスタンブール市内、考古学博物館及びボアジチ大学に於いて大谷探検隊関連遺物・遺跡調査、カッパドキア遺跡に於いて洞窟壁画の調査、アナトリア日本学考古研究所に於いて仏教西伝に関する研究打合せ、ガジ大学に於いて仏教遺跡調査、アフラット遺跡、ヴァルビジュ遺跡等に於いて遺跡調査を行い、10月24日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、10月25日大阪発、安重根ハルビン学会・東北アジア歴史財団に於いて国際学術シンポジウムでの講演と討議を行い、10月28日帰国。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、10月25日大阪発、成均館大学東亜学術研究院に於いて連続講演及び東アジア比較文学に関する共同研究に参加し、10月31日帰国。
- ・森時彦教授（東方学研究部）は、10月25日大阪発、ハイデルベルグ大学に於いて講義、研究打ち合わせ及び資料収集を行い、11月7日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、11月3日大阪発、台湾大学及び高雄第一科技大学に於いて講演及び学術交流を行い、11月8日帰国。
- ・籠谷直人教授（人文学研究部）は、11月5日大阪発、北京市内に於いて華僑関係資料に関する調査、北京大学に於いて北京フォーラム出席及び研究発表を行い、11月9日帰国。
- ・小池郁子助教（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月8日大阪発、オリ

シャ崇拜運動拠点及び個人崇拜組織に於いて宗教実践、社会宗教運動に関する資料文献収集及び実地調査を行い、11月9日帰国。

- ・森時彦教授（東方学研究部）は、11月7日大阪発、北京大学に於いて北京フォーラムにて招待講演及び資料収集を行い、11月11日帰国。
- ・籠谷直人教授（人文学研究部）は、11月9日大阪発、台湾市内に於いて華僑関係資料に関する調査、中央研究院に於いて華僑華人学会に出席及び研究発表を行い、11月13日帰国。
- ・山崎岳助教（附属東アジア人文情報学研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、10月30日大阪発、トレル・ド・ドンボ文書館に於いて清代档案史料調査、シントラ、ロカ岬に於いてポルトガル海洋史跡巡見、独立宮殿に於いて国際ワークショップへの参加及び研究報告、アジュダ文書館に於いてイエズス会関係史料の閲覧等を行い、11月14日帰国。
- ・稲葉穰教授（東方学研究部）は、11月13日大阪発、ソウル国立大学に於いて研究打合せ、ソウル国立博物館に於いて国際学会”Afghanistan on the Crossroads of Civilization”に参加、研究発表を行い、11月15日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属東アジア人文情報学研究センター）は、8月17日大阪発、オスロ大学に於いて国際シンポジウム開催と出席、講義、研究打合せ及び資料蒐集を行い、11月18日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月5日大阪発、廈門大学法学院に於いてシンポジウム「儀礼と刑罰」を廈門大学と共同開催し、12月9日帰国。
- ・矢木毅准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月5日大阪発、廈門大学法学院に於いてシンポジウム「儀礼と刑罰」に参加及び研究発表を行い、12月9日帰国。
- ・古勝隆一准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月5日大阪発、廈門大学法学院に於いてシンポジウム「儀礼と刑罰」に参加及び研究発表を行い、12月9日帰国。
- ・竹沢泰子教授（人文学研究部）は、文部科学省科

学研究費補助金により、12月2日成田発、マリオットホテルに於いてアメリカ人類学出席、ニューヨーク大学に於いて共同研究打合せ、ハーバード大学に於いて出版打合せを行い、12月15日帰国。

- ・船山徹准教授（東方学研究部）は、11月15日大阪発、ハイデルベルグ学術アカデミーに於いて石刻經典共同研究及び資料収集を行い、12月18日帰国。
- ・池田巧准教授（東方学研究部）は、共同研究費により、12月16日大阪発、中央研究院言語学研究所に於いて現代中国語のローマ字表記法についての資料収集を行い、12月20日帰国。
- ・池田巧准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月24日大阪発、中央民族大学に於いてギャロン語方言にかんする資料収集及び調査打合せを行い、12月27日帰国。
- ・武田時昌教授（附属東アジア人文情報学研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月21日大阪発、岳麓所院、湖南省文物考古研究所、武汉大学簡帛研究中心、中国科学院自然科学史研究所に於いて秦漢簡牘資料調査及び研究ワーキングに参加し、12月28日帰国。

## 外国人研究員

- ・汪 朝光 中国社会科学院近代史研究所・研究員（民国史研究室・主任）

中国映画における抗日戦争の記憶

（文化連関研究客員部門）

受入教員 森教授

期間 1月5日～7月4日

- ・田村恵子 オーストラリア戦争記念館豪日研究プロジェクトプロジェクトマネージャー  
日豪の戦争の記憶におけるナショナリズムとトランスナショナリズム

（文化生成研究客員部門）

受入教員 田中雅一教授

期間 2月20日～5月27日

- ・WIMMER, Andreas カリフォルニア大学ロサンゼルス校社会学教授

エスニシティと人種：理論的および実証的探究  
(文化生成研究客員部門)

受入教員 竹沢教授

期間 5月28日～8月27日

- FITZGERALD, Timothy スターリング大学言語・文化・宗教学部教授  
現代日本の宗教と民俗世界

(文化連関研究客員部門)

受入教員 田中雅一教授

期間 7月6日～2010年1月5日

- 劉 曉 中国社会科学院歴史研究所研究員  
元代の社会と文化

(文化生成研究客員部門)

受入教員 金教授

期間 8月31日～2010年3月1日

## 招へい外国人学者

- ESPOSITO, Monica  
道蔵輯要の研究

受入教員 麥谷教授

期間 2006年4月1日～2010年3月31日(継続)

- 李 玠爽 国立慶北大学校教授  
日本における元代法制史研究動向の調査

受入教員 金教授

期間 2月9日～2月23日

- 王 三慶 国立成功大学中国文学系教授  
日本文学小説研究

受入教員 高田教授

期間 3月1日～8月31日

- 金 世昊 韓南大学校師範大学歴史教育科教授  
韓中日の無政府主義の思想の受容及び運動の相互影響

受入教員 石川准教授

期間 3月17日～2010年2月28日

- 梁 會錫 国立全南大学校教授  
日本における中国古典文学研究の現状調査

受入教員 金教授

期間 4月7日～2010年2月10日

- 鞏 文 中国社会科学院考古研究所副研究員  
3～6世紀の装身具からみた東アジアの文化交流

受入教員 岡村教授

期間 8月11日～11月5日

- FIÉVÉ, Nicolas Bernard フランス国立極東学院教授  
千利休の茶室—その建築と時空間

受入教員 田中雅一教授

期間 10月1日～2010年9月30日

## 外国人共同研究者

- SCHERRMANN, Sylke, Ulrike  
青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査

受入教員 岩井教授

期間 4月15日～2010年3月31日

- ANDREANI, Fabiana イタリア国立東方学研究所研究員  
認知意味論から見た日本語とイタリア語の直示移動動詞における比較研究

受入教員 田中雅一教授

期間 4月24日～9月30日

- CAMPAGNOLA, Francesco イタリア国立東方学研究所研究員  
日本におけるイタリア近代哲学の受容

受入教員 田中雅一教授

期間 4月24日～2010年3月31日

- 馬 駿 フランス社会科学高等研究院 (EHESS) 博士課程  
梁啓超の政治保守主義と清末中国政治の展開

受入教員 石川准教授

期間 6月1日～7月31日

- FORTE, Erika Angela ウィーン大学芸術史研究所研究員  
7～10世紀中央アジアの美術史・考古学

受入教員 稲葉教授

期間 9月1日～9月25日

- MC DONALD, Kate Ph.D. Candidate, University of California, San Diego  
戦前日本のツーリズムに関する研究

受入教員 水野教授

期間 10月1日～2010年3月31日

期間 10月14日～2010年6月30日

## 出 版 物

### 外国人研究生

• 安 鍾洙

国際結婚夫婦の子共たちの身体観

受入教員 田中雅一教授

期間 2008年10月1日～2010年3月31日（継続）

• ALPERT, Erika Renee

Language and the Marriage Market in Kyoto, Japan

受入教員 田中雅一教授

期間 4月1日～2010年3月31日

• 葛 奇蹊

内藤湖南における文化ナショナリズムの形成について

受入教員 山室教授

期間 4月1日～9月30日

• GREENE, Eric M.

唐代以前の禅観実践

受入教員 船山准教授

期間 4月1日～2010年9月30日

• WITS, Casper

中国禅仏教の語録類

受入教員 船山准教授

期間 10月1日～2011年3月31日

• 張 徳偉

大蔵経の普及と明代社会

受入教員 船山准教授

期間 10月1日～2010年9月30日

• 何 嘉

環境の文化人類学について

受入教員 田中雅一教授

期間 10月1日～2010年9月30日

• 李 愛蘭

植民時代に朝鮮人男性と結婚した日本人女性の文化人類学的研究

受入教員 田中雅一教授

### 紀要

東方学報 83冊（紀要第161冊）

2008年9月25日刊

東方学報 84冊（紀要第162冊）

2009年3月31日刊

東洋学文献類目 2006年度

2009年3月27日刊

ZINBUN number 41

2009年3月刊

人文学報 第98号（紀要第163冊）

2009年12月30日刊

## 研究報告その他

コンタクトゾーン 第2号

2008年3月25日刊

漢字と情報 第17号

2008年10月31日刊

漢字と情報 第18号

2009年3月16日刊

「敦煌写本研究年報」第3号 西陲發現中國中

世寫本研究班 高田時雄編

2009年3月31日刊

所報人文 第56号

2009年6月30日刊

20世紀中国の社会システム 森時彦編

2009年6月30日刊

東方学資料叢刊 第18冊

2009年9月30日刊

東洋学へのコンピュータ利用 第20回研究セミナー

（2009年3月27日実施）

2009年3月27日刊

所報人文 特別号

2009年11月5日刊